

# キャリア探索における 非言語的ツールによる自己理解促進効果の基礎的検討

○道谷 里英 (順天堂大学 国際教養学部) 鈴木篤司 (NPO 法人 THOUSAND-PORT)

## Fundamental study of the effect of the non-verbal tool for increasing of self-understanding on career search.

MICHITANI, Rie (Juntendo University) SUZUKI, Atsushi (THOUSAND-PORT)

### 背景と目的

学校から社会への移行期は、キャリア発達において探索段階であるため、多くの学生は就職活動を通じて職業的自己概念を明確化し、多様な選択肢の中から自身が納得できる仕事や職場を見つけていく。しかし、正規の職業経験のない学生が職業的自己概念を明確化することには困難が伴うことが指摘されている。自己理解に対する不安が高いと進路選択に対する自己効力が低くなることも知られており、自己を理解し表現できることが学校から社会への移行期において重要な課題となっている。

学校から社会への移行期におけるキャリア支援プログラムでは、言語的ツール (各種心理検査やインフォーマルなワークシート等) が用いられ、過去の経験や現在の興味・関心・資質を言語化し、将来の展望を持てるよう支援するアプローチが主流である。しかし、本格的なキャリア探索を始めようとする段階では、職業的な志向や価値観等を言語化するために必要な知識や情報が乏しい場合がある。したがって、言語以外の手段を活用して自らを表現する試みを媒介として、キャリアに関わる自己理解を促すことができれば、従来とは異なるキャリア探索アプローチを見出せる可能性がある。

自己理解のために非言語ツールを活用した実践例としては、臨床心理学の知見を応用した描画や切り絵を用いた方法がある。しかし、こうしたアプローチは自己理解という点で有用ではあるものの、キャリア支援を目的として活用するにはさらなるプログラム化が必要であることが指摘

されている (安立, 2016)。一方、近年企業における能力開発において、レゴ®を活用した取り組みが盛んに行われている。教育機関においても就職活動支援の一環として活用されている例があり、非言語的ツールを活用することで異なる視点から働くことに関わる自己理解が促進される効果が期待されている。例えばレゴ®シリアスプレイ®メソッドを活用したワークショップの有効性は定性的な研究によって確認されている (筒井・船山, 2015)。しかし、キャリア探索段階にある学生の自己理解への影響や日頃のキャリア探索行動との関連について定量的な研究は行われていない。

そこで、本研究ではレゴ®シリアスプレイ®メソッドを活用したワークショップ (表 1) の受講が、受講生の自己理解に与える影響を明らかにするとともに、受講生のキャリア探索行動との関連を検討することを目的とする。

### 方法

#### 調査実施方法

本調査は、2017年12月から2018年5月にかけて東京都内の4年制大学2校における1,2年生向けキャリア形成科目内で実施されたレゴ®シリアスプレイ®メソッドを活用したワークショップの受講生を対象として行われた。ワークショップ実施直後に匿名による質問紙調査を実施した。

#### 質問紙の構成

質問紙は、「ワークショップの受講によって自分自身への理解がどの程度深まったか」を問う項目およびその回答の理由に関する自由記述と、安

達 (2008) によるキャリア探索尺度 13 項目 (環境探索 7 項目、自己探索 6 項目) から構成された。

### 倫理的配慮

本研究は、順天堂大学国際教養学部倫理等審査委員会の承認を得て行われた。

## 結果

### 基本属性

全体で 38 名の回答を得た。回答者の性別は、男性 13 名 (34.2%)、女性 25 名 (65.8%)、学年は 1 年生 21 名 (55.3%)、2 年生 17 名 (44.7%) であった。

### 自己理解の深まりの程度

全回答者の平均点は 5 点満点中 4.29 点であり、ワークショップの受講によって自己理解が深まったことが分かる (表 2)。男女別、学年別の平均値を比較したが有意な差は確認されなかった。

### キャリア探索行動

回答者の日頃のキャリア探索行動の平均得点を表 3 に示す。自己探索において女性の方が男性よりも高い傾向が有意傾向で確認された。自己理解の深まりの程度とキャリア探索行動との間の相関係数を確認したが、低い関係しか見出されなかった (環境探索  $r = .03$ , 自己探索  $r = -.04$ )。

### 自由記述コメントの質的分析

質問紙調査の自由記述コメントについては、学会当日に発表する。

## 考察

分析の結果から、ワークショップを通じた自己理解の深まりの程度に、学年による差異が見られないことが確認された。また日頃のキャリア探索行動と自己理解との関連は確認されなかった。学年やこれまでのキャリア探索活動に関わらず、レゴ®シリアスプレイ®メソッドを活用したワークショップが自己理解を促す可能性が示唆された。しかし、限られたサンプル数であり、今後さらに大規模な調査による検討が必要である。

## 主な引用文献

安立奈歩 (2016) . 大学生の自己理解および自己表現の促進を目的としたグループワークの効果に関する予備的検討—芸術療法とキャリア発達支援の橋渡しをめざして—*椋山女学園大学研究論集* 47, 1-11.

安達智子 (2008) . 女子学生のキャリア意識—就業動機、キャリア探索との関連— *心理学研究* 79(1), 27-34.

筒井久美子・船山和泉 (2015) . 自己理解にもとづく「グローバル人材育成」—レゴワークショップを活用したモチベーション喚起— *グローバル人材育成教育研究* 2(2), 1-13.

表1 ワークショップ概要

1 導入, ワークショップの狙い (5分)
2 ワーク① ウォーミングアップ (20分)
3 ワーク② 過去の成功体験をレゴ®で制作し, コンピテンシーを見つける (25分)
4 ワーク③ 「20〇〇年の社会で活躍する私」をレゴ®で表現し, その表現に必要な資源を言語化する (25分)
5 振り返り (15分)

表2 自己理解の深まりの程度についての平均値および標準偏差

【全体】	M	SD
全体 (n=38)	4.29	0.65
【性別】	M	SD
男性 (n=13)	4.31	0.63
女性 (n=25)	4.28	0.68
【学年別】	M	SD
1年生 (n=21)	4.38	0.59
2年生 (n=17)	4.18	0.73

表3 キャリア探索行動の平均値および標準偏差

【全体】	M	SD
環境探索	3.42	0.70
自己探索	3.93	0.68
【性別】	M	SD
環境探索	男性 3.18	0.93
	女性 3.54	0.53
自己探索	男性 3.64	0.86
	女性 4.07	0.52
【学年別】	M	SD
環境探索	1年生 3.42	0.77
	2年生 3.41	0.64
自己探索	1年生 3.86	0.73
	2年生 4.01	0.62